

平成29年度
発生予察情報

特殊報第1号

平成29年7月25日
埼玉県病害虫防除所
(TEL:048-539-0661)

ナス黒点根腐病の発生について

県内の無加温施設栽培ナスにおいて、草丈がやや低く萎凋を示し、その後枯死する被害が発生し、埼玉県農業技術研究センターで原因を調査したところ、ナス黒点根腐病菌による被害と判明しました。

* 特殊報：新規な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異な現象が認められた場合に発表するものです。

1 病害虫名 ナス黒点根腐病

[病原菌名：*Colletotrichum coccodes*]

2 発生経過

- (1) 平成28年3月に、無加温施設栽培ナス（穂木品種：式部, 台木品種：台太郎）において、草丈がやや低く萎凋を示し、その後枯死する株が発生した。
- (2) 県農業技術研究センターにおける診断結果、病原菌 *Colletotrichum coccodes* によるナス黒点根腐病と判明した。
- (3) 本病は、日本では1973年に長崎県、2006年に高知県で発生が報告されている。
- (4) 平成29年3月時点で他のほ場での発生は確認されていない。

3 病徴

- (1) 最初、草丈がやや低く生育した後、地上部の葉が萎凋し、やがて株全体に拡がりひどくなると枯死する（図1）。
- (2) 被害株の根は根腐れを生じ根の表面には多数の小黒点が観察される（図2）。顕微鏡下では小黒点の他、表面上に剛毛が観察される（図3）。

4 病原菌の特徴と発生生態

- (1) 病原菌の生育適温は25℃前後であるが、20℃前後の比較的低い温度で発病しやすい。
- (2) 病原菌は根や茎など残渣とともに土壤中で生残し、次作の伝染源となる。
- (3) PDA培地での培養では、菌叢表面に直径1mm程度の菌核が形成され無色、単胞、長橢円形～紡錘形の分生子が形成される（図4）。
分生子の大きさは16.0～24.0×4.0～5.0μmである。
- (4) 台木品種による感受性は異なり‘台太郎’は特に弱い。



図1 萎凋を示した株



図2 根に形成された小黑点

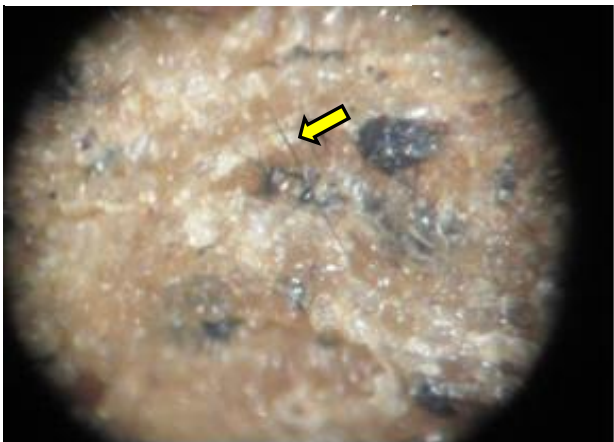


図3 小黑点上に形成された剛毛

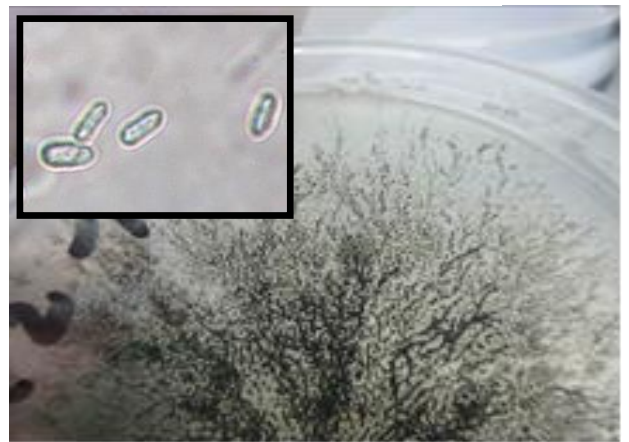


図4 PDA 培地での菌の生育と分生子

5 防除対策

- (1) 本病に対する登録薬剤はない。
- (2) 低温時に発病しやすいのでは場を注意深く観察し早期発見に努め、発病株に形成された菌核が次作の伝染源となる可能性があるので、株を抜き取りほ場外に処分する。
- (3) 台木に‘トナシム’、‘トルバム・ビガー’など耐病性の品種を利用する。